

小室井経済学大学

だより

第9号

平成11年11月1日発行

雑学大学の歩みから

本校の学生諸氏の大方は、利益社会の役割を果たした後か、ご婦人にあつては子育てを全うした後などの余暇を得ている面々であるうかと推察している。なお、その取得した自身の自由時間を、より増しに生きようと学ぶことへの意欲と楽しみよるこびを享受しているのではないかと。正にその殊勝な生きざまこそは生涯学習時代の名にし負うものであると思うのである。

雑学大学では、老若男女を問わず全ての世代の人々に来ていただけるようカリキュラムを考えているつもりではあるが、衆知の事実として若い人の出席が少ない。シルバー大学とまがうきらいなしとはしないが、要は学習の自身をどう構築し、学習者のニーズや期待に応えるかが課題であると認識している。自問、反芻はするが、聴講者の顔ぶれを気遣う必要はないかもしれないのである。

思考するもの

ネットトワーク作り始まる

昨今、西東京雑学大学（菅原範人氏主宰）の音頭で、近隣数市で民間の教育団体が目的を一にして学習内容の質的な向上を図るべく連携しようと、生涯学習ネットワークを設立する方向にある。雑学など地域住民への学習提供を使命とする団体にあつては、共通の悩みの一助になることは確かである。

教育の概念は学問を授ける時代から、自ら学ぶ方向へと変わっているという。小生は教育の専門家ではないから一端のことを宣べるのは真に僭越であることを承知している。そこを踏まえながらの見解は学習者の賢明な選択判断で受講していただくことが、とどのつまり自ら学ぶ方向への自由な余地を残しているものと考えるのである。

三タダの民間運営の教育期間であれば、これ以上望み得ないのではないかと自認するのだが果たして許されようか。

学生各位のご理解を願いながら健気な顔を見せてくれることを望んでいる。（理事 梶野弘司）

「講師1000人、分野も広がる」

「雑学大学」市民会といた名で生涯学習講座を開いている武蔵野、保谷など多摩地区十五市の市民団体が、互いに講師を紹介したり、フォーラムを共催したりして連携を図ると、「東京多摩生涯学習ネットワーク」を来期設立する。講師探しの手足や資金不足などの悩みを抱えている団体もあり、関係者「ネットワークをきちんと広げれば、幅広い分野の講座が企画できる」と期待している。



このほか、情報紙を年数回発行し、各団体がどんな講座を計画しているか一覽できるようにして、相互の講座参加の機会を広げる。

ネットワークに参加する各地を会場にネットワーク（武蔵野の「武蔵野西郷生涯学習会」保谷の「西郷生涯学習会」府中の「府中生涯学習フォーラム」を開設予定）を予定。来年七月ごろには、東京雑学大学「府中の」生涯学習フォーラムを開

連携で魅力アップ

に生涯学習ネットワーク設立

ネットワークの取組が新聞で紹介された

第三十二回講義 八月一日

『世界七大陸最高峰登頂成功』

教授 野口 健氏

山に登り始めて一〇年。「七大陸の最高峰を制覇した」と言われるが、山登りは天候次第であり、ちょうど天候が良くなったところで運よく登ることができた。山に登らせていただいたという気持ちだ。最後のエベレスト（ネパール呼びで『サガルマータ』）は三度目の挑戦だった。昨年はあと四百メートルというところで猛吹雪のため、一時間も迷った挙げ句引き返した。無理をすると命にかかわる、死にたくないという気持ちだった。

山登りを始めたきっかけは、高校時代落ちこぼれと言われ、暴力をふるって停学になった時、植村直巳さんの本を読んだのがきっかけだった。厳格な高校に入学时、周囲からは落ちこぼれと言われ相手にされず、何とか周囲の人たちを見返したいという気持ちだった。モンブラン、キリマンジェ口と高校時代に登り、次第に周囲の自分を見る目も変わってきた。

一芸一能で亜細亜大学の入試を受けた時、大学時代に七大陸に登ることを宣言した。

最初のうちは、費用もそんなにかからなかったが、山が大きくなると次第にアルバイトでは賄えないくらいに費用が必要になり、スポンサー捜しからしなくてはいけなかった。内心は成功する自信がなくても必ず登ると言い切つて、スポンサーを見つけた。そう言い切ることで自分自身を追いつめるようなやり方で、これまで登り続けてきた。

いわゆる山岳部というのは、あまり体質に合わず、自分で隊を組んで登った。シェルパを雇い、一緒に登っているうちに、シェルパの人格や生活がないがしろにされている現状を知り、疑問を持つようになった。また、山がごみで汚れているのも何とかしたいと思っている。これからは、山のごみを片づけることやシェルパ基金を作つて、シェルパの生活を少しでも助けることに力をそいでいきたい。これが自分にとっての新しい冒険である。

第三十三回講義 八月十五日

『消防今昔物語』

「安全をどう構築するか」

教授 晦日 正氏

東京都の七九番目の消防署として、昨年十二月小金井消防署ができ、初代の署長に就任いたしました。火事だけでなく、水防体制も任務にあり、昨日は集中豪雨のため、小金井市でも第一非常配備体制をとり夜九時に解除するという出来事がありました。

さて、消防の歴史を江戸時代に振り返ってみますと、江戸時代は三代將軍家光の時代から人口の増加に伴って、火災が頻繁に起きるようになりまして。消失面積は現在と格段に違う大きなもので、復興しては燃えるの繰り返しと言えます。江戸の三大大火の一つ「明暦の大火」は、本郷の本妙時から出火し、二六・七k₃消失し（関東大震災では三四・七k₃）一〇万七千人以上が焼死しました。この火事がきっかけで、それまでであった大名火消しの他に、幕府直属に消防組織「常火消し」が設置され、吉宗の時代には町火消しがで

きて、江戸時代の消防体制が整いました。市民生活にも様々な規制がありました。明治十三年、内務省の警視局に消防本部が設置され、現在の東京消防庁の前身ができました。

さて、「安全」という問題はかなり幅広く、風水害に関しては昔からかなりお金をかけてきたのですが、現在は人的災害から環境物質まで生活の中に安全を齎かす存在は多くあります。しかも、行政上の管轄が関係省庁に広くまたがつており、その連携は必ずしもうまくいってはいません。なおかつサリンのような事前にデータのな化学物質に対しては対応が遅れることもあり課題は残ります。

昨年、一一九番の利用は一日二七五一件でしたが、本来に必要なことかと思われる時もあり、緊急を要するところに時間がかかることもあります。税金で運営されている以上、市民の協力も必要で、有効な利用を一緒に考えたい。ともに、「一番身近で」「一番親しまれて」「一番信頼される」行政庁を目指して、取り組んでいきますので、ご支援ご指導の程をお願いいたします。

『老婚のすすめ』

―孤独なくして生きがいを―

教授 小俣 英五氏

人生には定年がない。この世を果てるまでロマンと感動の人生でありたいものです。そこで基本的な問題として老若を問わず、男女が一体となって社会生活を営むことが理想であります。

今日、少子化が社会問題となっております。若い人がなかなか結婚せず、しかも子供を産む数が少ない一方、高齢者が年々増加し、将来において高齢者が受ける年金等社会保障制度の負担する若年層が不足していくなど、深刻な問題はありますが、しかし、弱気になつてばかりいられない。

老いても青春、高齢者は元氣である。不幸にして伴侶を亡くして独り暮らしで：淋しい：と言う高齢者にお勧めするのが、高齢者の結婚（老婚）なのであります。

高齢者の性と、結婚（老婚）についてはこれまで無視されたり、奇異な目で見られがちであった。時には、：いい年をしてはしたな

い。：年寄りには家で静かに暮らすべきだ。：私だってまだ結婚してないのに冗談じゃない。など避難を浴びせられ、まだまだ偏見や周囲の理解が少ないのも事実であります。

人間はいくつになつても人を愛したい、愛されたいというロマンの心を持つているものです。年齢に関係なく堂々と私は健康なんだという人生最後まで積極的に生きようとする姿勢が必要です。

そこで高齢者の結婚（再婚）の実態ですが、『持寄り結婚』であります。それぞれの社会でいろいろな道を歩み、現在に至つた人たちばかりであります。家庭・子供・財産・収入面いろいろの問題をかかえて結婚するのでありますから、最終的な詰めが必要であります。子供を含め、周囲の理解と協力が必要であるということをお忘れたいけません。

また、形態にこだわらなければ、同居・同棲・別居でも法的な結婚（老婚）形態でなくても構わないのではないかと思います。ガンバレ高齢者！！

『ヨーロッパで見た老人ホーム』

―デンマーク・オーストリア・ドイツ・フランス―

教授 小杉山 禮子氏

昨年の秋、ヨーロッパで視察した四ヶ国―デンマーク・オーストリア・ドイツ・フランスで見た老人ホームのうち、紙面の都合で、次の二ヶ国についてご紹介する。

●コペンハーゲン市「グランポ・プライエセントレー」

北欧の福祉の国―デンマークのこのホームは公立。①ケア付住宅

②最も体の弱つたお年寄りのナーシングホーム③老人ホームと作業療法室、談話室、広々とした食堂

などを備えた複合老人施設。

1入居条件―七〇歳以上で医者や病院からの指示、判定委員会で見定められた人が入居。

2入居が決まった人への対応―ホームの看護婦と作業療法士が自宅を訪問し、本人・家族とホームに移るための準備を進める。①健康

・精神状況、生活習慣の把握②使っている家具、好きな絵画など、持参するものを把握する。

3リハビリ、介護の費用は無料。

4家族との関係―二四時間体制で家族はいつでも訪問できる。ゲストルームもあり、宿泊や食事も可能。入居仲間や家族とのコミュニケーションを大切にしている。

●パリ市「メゾン・レトレレー・レ・グリシーヌ」

パリ市近郊の住宅地の中にあるこの老人ホームは、民間の福祉財団が運営。四五室のこじんまりした家庭的なホーム。訪問当日は、日曜日で業務は休業。が、近隣に住んでいる所長代理が駆けつけてレクチャーとホームを案内してくださる。

九七歳と七九歳の女性入居者の方が、レクチャーとお茶の時間に同席して場を盛り上げてくれた。

若くてチャーミングな所長代理は、アルツハイマー病の人たちのホームに一年、このホームに七年。

ここでは、所長代理も入居者も明るくて社交的。お互いに家族のような雰囲気印象的だった。

今後のカリキュラム

- 11月 7日 「中国の経済・社会と国民の生活」 井手俊弘氏（日中経済協会参与）
②この日は場所が、商工会館3Fになります
- 11月21日 「誰にでもよくわかる漢詩・漢文教室－中国古代の詩歌－」
田部井 文雄氏（本学学長、元千葉大学教授）
- 12月 5日 「慢性病の治療の秘訣－アトピー喘息など－」
師岡 孝次氏（東海大学教授、著書『痴呆にきく葉』）
- 12月19日 （調整中） ・講義の後、懇親会を予定しています。参加費は実費300円。
- 1月16日 「苗字のあれこれ」 坂内 龍雄氏（小金井史談会会員）
- 2月 6日 「健康日本21－21世紀における国民健康づくり運動」
長野みさ子氏（府中小金井保健所所長）
②場所が変わります。後日連絡いたします。

- ・教室は小金井工業高校会議室（スリッパをご持参下さい）。時間は午後2時～4時。
- ・学生登録は、年会費2000円。 カリキュラムや学報をお送りします。

*生涯学習ネットワークからのお知らせ ご参加お待ちしております

設立総会記念講演 『今なぜ生涯学習か』小栗慎次郎氏（東京都生涯学習部長）

場所：国分寺本町・南町地域センター（国分寺駅南口隣）

時間：午後1時半より総会、2時半より講演会

編集後記

一面でも紹介されているように、生涯学習をテーマに活動している多摩地域の市民団体が、ネットワークを作り情報交換を図ろうと準備を進めています。講義や運営に関する情報は、小金井雑学大学にとっても貴重なものになると思われますので、参加の予定です。

多摩各地で熱心にユニークな活動をしている約二〇団体に呼びかけがされており、広いネットワークが誕生するでしょう。生涯学習を市民の力でやっというところという動きはこれからも広がると思いますので、ネットワークがそれぞれの地域の活動の支援になることを願っています。

（五十嵐記）

発行責任者 五十嵐京子
小金井市本町

☎ & FAX

（夜間）

